



◆組合員資格の確認について

インボイス制度が開始され、組合員資格の確認が急務となっております。農協特例の適用を受けるにあたり無条件委託販売、共同計算方式等をふまえ、当該組合の組合員(正組合員、准組合員)が条件となっております。

出荷者の方が必ずJAへ出資があるか改めて確認をお願いいたします。

◆「チェック！ながの県農業サポートメール」紹介について

県では農業被害の未然防止と被害軽減を図るため、災害発生の恐れがある場合、農業者の皆さんに技術対策を直接お届けしています。現在、より迅速に、かつ確実に情報をお届けするため、民間の「メールマガジン」を活用した情報配信を無料でしていますので、ご活用ください。

1. メールマガジン(株)まぐまぐ

1) 配信時期： 災害の発生が予測される場合、その都度配信します。

2) 受信： スマートホン等の端末

2. 配信する情報

晩霜や台風の影響など農業災害が予想される時などに、事前対策などの情報をお知らせします。

3. 登録方法 【URL】 <http://www.mag2.com/m/0001627956.html> より

◆台風前にトレリス・果樹棚等施設点検について

台風などにより、トレリスや果樹棚の倒壊する事例があります。このため、事前に点検をしてください。

1. 幹線はしっかりと張られているか。

2. 樹または支柱が固定されているか。 →固定が甘いと樹がずれる、倒れる。

3. 隅支柱が最低50cm程度埋まっているか。隅支柱にアンカーまたは斜柱がしっかりと固定されているか。控え線は、切れていないか。サビで切れそうになっていないか。列に対し横方向への幹線並びにアンカーが入っているか。 →土壌条件により、適正な深さは異なるが、浅いと倒れる。

4. 中間柱の本数が十分か。 →りんご高密度植栽培の例で言えば、7～5mに1本程度必要。

5. すべてを確認し、樹体被害や施設被害にならないよう点検し、必要に応じて修繕を実施する。

◆農作業に係る留意事項について

「農作業の安全」に対する意識を常に持つよう心がけ、農作業中の事故を起さないよう、常に「安全」の意識を高め、怪我等ないよう作業を実施ください。

また、地域住民より苦情が寄せられています。同じ住民として、配慮しながら農作業をしましょう。

1. 高温時の作業、単独作業は極力避け、手足のしびれ・めまい・吐き気・頭痛・汗をかかない・体が熱い・体がだるい・まっすぐ歩けないなど。体調不良となったらすぐに作業を中止しましょう。

のどが渇かなくても20分おきに休憩し、コップ1～2杯以上を目安に水分補給(スポーツ飲料等も)しましょう。

2. 農機具利用(スピードスプレーヤ・動力付噴霧器・爆音機等)の際は、日中も含め特に極端に早い時間等の騒音に注意する。※爆音機は、行政より住宅地より200m以上離す。早朝夜間は使用しないと周知されています)

3. 子供たちの登下校、通勤等の時間等、薬剤散布に注意し、対策を実施する。

4. 近隣に住宅等ある場合は、住宅や洗濯物への飛散をしないよう、配慮しましょう。

5. 剪定枝の焼却は、消防書への届け出を必ず行い、大きな火種や煙に注意(凍霜害資材の燃焼)し、適正な処理をしましょう。

※薬剤防除や焼却は、必要に応じて近隣住民に事前にお知らせする等も実施しましょう。

6. 農業用ビニール・ネットが強風などで飛散しないように十分に注意して管理をお願いいたします。

また、電線などに引っ掛かった場合は速やかに関係先への連絡をお願い致します。

7. 農産物の盗難に気を付けましょう。また農作業中を狙った車上荒らしやアルミの脚立・農機具の盗難が管内でも発生しています。(放置せずしまう・カギをかける・持ち帰る)

◆車両運転等の注意について

車両運転などの際は、次の点に注意してください。

1. 道路状況に注意し、脱輪や転落などならないようにする。
2. 荷物を積む場合は、荷崩れにならないようロープ等でしっかり固定する。また走行の際に、新聞紙やウレタンなどが飛散しないようにする。
3. 流通センターや直売所など、多くの車両などが出入りする場所は特に注意し、事故等ないようにする。

◆盗難に注意

農産物・資材・車両等の盗難に気を付ける。施錠する・園地に置きっぱなしにしない等の対策を実施する。

◆農薬のドリフト（飛散）防止対策を徹底し、 安全・安心な農産物を生産しましょう

1. 農薬の使用にあたっては容器に表示されている記載事項を遵守し適正な取り扱いに心がけましょう。
2. 農薬散布を行う際は、風の弱い時に、風向きに気を付けて散布しましょう。
また、住民等へ周知するなど周辺環境への配慮にも心がけましょう。
3. 農薬飛散（ドリフト）低減ノズルや障壁ネットなどドリフト低減資材を活用しましょう。
また、ノズルの散布圧力や散布風量を適正にし、ドリフト対策を徹底しましょう。

◆草刈りについて

適度に短く切り水分の競合を防ぐ。刈りすぎで、土が見えるようでは逆に水分が蒸発してしまい、樹体や果実に影響が出やすいので注意する。

なお、機械の利用には十分注意するとともに、早朝からのエンジン音はトラブルの元となるので注意する。

◆鳥害対策について

1. バードガードなど声や音を再生する装置は、2週間ぐらいで慣れて効果が低下するので、他の対策と組み合わせる。
2. ロケット花火は、人が直接的に威嚇するため、慣れの起こる可能性は少ない。
なお、人のいる方向や可燃物のある方向に打ち上げた場合、事故や火災につながる危険性があるので、安全な使い方を徹底する。消火用水の確保や風向きを考慮する。
また、1日200個以上使用する場合は、都道府県知事の許可が必要。
3. かかしは人に似ているほど効果が高いが、慣れるので位置や形をこまめに変える。
※設置された器具は、鳥にとっては「怪しい」ため一時的に他へ移るが、時間がたてば戻ってくる。
鳥に「こけおどし」と思われないように、複合的な使用とこまめな移動が必要。

◆高温乾燥・多雨対策について

1. かん水・排水

高温乾燥時は、果実肥大や日焼け軽減にかん水は重要。多雨時には、根傷みなど樹体や果実に影響が大きいため、排水が重要になる。

- 1) ほ場の水分状態、土壌条件に合わせて、適宜かん水を行う。

なお、かん水設備のない地域では、土の湿潤状況を調べ、かん水が必要な場合は、樹冠下を中心にほ場面積の60%程度を目安として散水する。かん水後は、蒸散防止のため、敷きわら、マルチ等を行う。かん水量の一般的な目安は、第1表の基準を参考とする。

第1表 かん水量とかん水間隔の基準

土 壌	1回のかん水量	かん水の間隔
粗 粒 質	20mm	4日
中 粒 質	30mm	7日
細 粒 質	35mm	9日

- 2) りんご、ぶどう、なしは、乾燥や多雨によって、葉やけが発生することがある。

特にりんごわい性台樹では、根域が狭く影響を受けやすいので、注意する。

ぶどうは、果実肥大期以降、水分ストレスで縮果症が発生しやすくなる。

- 3) 核果類（もも・杏等）は、高温乾燥により成熟・着色の遅延、多雨では成熟が進むため、果肉硬度を参考にしながら、適期収穫を心がける。

- 4) 水が溜まる所は排水を図り、長雨に備えて圃場周囲に明きよ・暗きよ等の排水対策を行なう。

2. 日焼け対策と新梢管理

- 1) 樹体の主枝、亜主枝等、骨格枝の背面部は、日焼けが発生しやすい。徒長枝は全て切らずに、間引くか、30cm程度残して切除して、「日除け」枝を設ける。葉がない部位は、白塗剤、稲わら、段ボール等で日除け対策を実施する。

新梢整理、日焼け果の発生しやすい南西方向の樹冠外部の剪除量を減らす。

ぶどうは、縮果症の発生防止のため、水まわり期の直前では、急激に着果量を減らす摘房・摘粒や、強い新梢管理は控える。

- 2) 園の南～西側の樹体を白い寒冷紗等で覆うと、日焼け果の発生が軽減される。

設置期間は、気温が低下し始める9月頃までとする。

ぶどうは、袋かけと笠かけを同時に行う。なお、日当たりのよい箇所では遮光率が高いクラフト笠などを用いる。

- 3) 着色管理を行う場合は、シルバーマルチが高温になりやすいので、タイベックなどに変更し使用する。ももは、日焼け果の発生が心配される場合は、除袋する2～3日前に袋の下部を破り、外気温に馴染まし、果実温が上がってから除袋をする。また、ピーチ袋等のワックス袋は、日射により、高温障害が発生する場合がある。高温が続く場合は、ワックス袋の下部を上げるか、袋を外すなどして対応する。

- 4) 草刈りを適度に行う。土は露出させないようにして土壌水分の蒸散を防ぐ。

3. 病害虫

- 1) ハダニ類は、梅雨明け後から発生が多くなると予想される。定期散布に殺ダニ剤が入る場合は、散布量をしっかりいれ、ムラなく散布する。

する。

- 2) 曇天多雨で病害発生が増加する。適切な薬剤防除と耕種的防除の徹底に努める。

◆スモモヒメシンクイ対策について

シンクイムシ類は、果樹において、果実害等大きな問題となり、農家の収入に大きな影響を及ぼしてきました。特に、スモモヒメシンクイは、りんご・プルーン・スモモにおいて、甚大な被害となります。

発生源の一つとして、自家用等に園地のプルーン・スモモや庭先に植えられているハナモモ・ボケから、近隣の販売目的に栽培している果実へ飛来している事が、課題となっています。発生源にならないよう、管理作業をお願い致します。近所に見受けられる場合は、声掛けをしてください。

1. 被害果の処理方法

①落果した果実も含め“シンクイムシ類の被害果”はすべて集め、7日以上できるだけ長く水浸けし、果実内の幼虫を殺す。

②被害果を土中に埋めても浅いと羽化できるので、穴は深く掘って埋める。

浅く埋める場合は、基本的に水浸け後に埋める。

③肥料袋に被害果を詰めて口を縛り、炎天下に放置し、熱で殺した後に埋める。

④数量が多いとかさばるので、被害部分だけをくり抜いて処理しても良い。

2. その他対策

①薬剤防除等で管理をする。

②放任樹等シンクイムシ類の発生源となりそうな樹は伐採する。花桃・ボケなども含む

スモモヒメシンクイの特徴

1. 卵期間は4～7日と短いのが特徴（20℃で約7日）
2. 孵化後直ちに果実内に食入し、約27日で成虫となる。
3. 交尾は羽化後2日目から行う。